

全世界をつつむ笑いと感動!
〈映画芸術〉の巨匠フェリーニが
素朴にそしてエネルギッシュに
謳いあげる青春のノスタルジア

*私は思い出す
懐しい故郷を——
親しい人々を——
そして憧れた
あの美しい年上の女を

FEDERICO FELLINI
AMARCORD

フランコ・クリスタルディ・プロ

フェリーニの アマルコルド

テクニカラー

監督フェデリコ・フェリーニ/原作・脚色フェデリコ・フェリーニ/トニーノ・グエルラ/製作フランコ・クリスタルディ
アン・イタリアン・フレンチ・コー・プロダクション・F.C.(ローマ)ーP.E.F.C.(パリ)ワーナー・ブラザース映画

From Warner Bros.  A Warner Communications Company

フェリーニの アマルコルド



A FILM OF
FEDERICO FELLINI
AMARCORD

★スタッフは世界の超一流!
〈映像芸術の巨匠〉 フェデリコ・フェリーニ監督
「アーベの恋人」のフランコ・クリスタルディ製作
「夜」「軽蔑」「赤い砂漠」のトニーノ・グエルラ
& フェデリコ・フェリーニ原作・脚色
「山猫」愛の狩人」のジュゼッペ・ロトゥンノ撮影
「太陽がいっぱい」「ゴッドファーザー」のニーノ・ロータ音楽



従来通り、ローマのチネチッタに巨大な野外セットを組んで撮影されたこの作品には巨匠フェリーニのすべてがある。それでいながら、これまでのフェリーニ作品に對して我々が抱きかけた難解さがない。彼は今ここに、自分の「サウカス」を我々すべてへの映画フラのための「サウカス」として見せてくれる。これは1974年度イタリア国内の数々の映画賞を独占し、ヨーロッパ各地で大ヒットを記録している今年度必見の名作である。

(上映時間—2時間4分)

- ★数々の映画賞に輝く/
デビッド・デ・ドナッテロ賞
最優秀作品賞
最優秀監督賞
アンジェロ・リッツォーリ賞
最優秀監督賞
シルバー・リボン賞
最優秀作品監督賞
最優秀原作賞
最優秀脚色賞
最優秀新人男優賞
最優秀装賞



「春一番」の吹いた日の夜。ここ北部イタリアの小さな港町では、町中の人々が広場に集い、うす高く積みあげられたガラクタの上に冬の魔女の人形をかかげて火をつけ、訪れる春を祝って歌い踊り、騒ぎあかして15歳の春を迎える少年チッタ(ブルーノ・ザニン)も父(アルマンド・フランチャ)や母(ペペラ・マツジョ)そしておじいさん(ジュゼッペ・ラニグロ)や弟たちと共に祭りに来ていた。通りでは、男たちのひやかしに、若い娘たちが媚をふりまき嬌声をあげている。家々の窓に酒をくみかわりかかると、人々はそれぞれの思いで酒をくみかわりかかっている。チッタの憧れている年上の美しいひと・グラデスカ(マカリ・ノエル)もいる。そしてチッタの友達の悪童連も、さっきまで女の尻を追っかけていたと思つたら、今度は首のアカコティオン弾きのおじいさんをからかっている。何て素晴らしい夜なんだろう。

をする時も、前を開けず放原するしまつ。そしてとうとう途中一休みした農家の庭先で、おじいさんは皆の目を盗んで大きな木のてっぺんに登ると、大きな声で「女が欲しい!」と叫ぶのだった。誰が何と言おうと降りてくるものではない。結局おじいさんはほとほと精神病院へつ戻されたとおじいさんの一番の望みは叶うはずがないと思えたからだった……

原作並びに脚色は「情事」「夜」「軽蔑」などイタリアを代表する名シナリオ・ライターのトニーノ・グエルラとフェリーニの共同執筆で、2人のコンビはこれが初めて。製作はこれまたイタリア映画界の大物フランコ・クリスタルディ。彼は「白夜」「アーベの恋人」などの製作者として有名であると同時に、クラウディア・カルデナレの夫としても知られている。

また当時、イタリア全土に荒れていたムソソリーニのファシズム旋風はこの小さな港町でも例外ではなく、少しでも反抗的な言動でもとうとうものなら、たちまち本部に連行され、さんざんに痛めつけられるというありさまであった。チッタの父もただあやしという理由だけでひどい目にあわされたりもした。

そして冬が来た。降り続いていた記録的な大雪がカラリと晴れあがった日、どこから逃げだして来たのか一匹の孔雀が、雪の上に舞い降りると、まばゆいばかりに見事なその羽根を広げて見せた。だがイタリアでは孔雀は不幸の前兆であると信じられていた。その冬、チッタの母は病気をこじらせてこの世を去った。

だがその感動的な「別れ」を基調に描きながら、そこがフェリーニは自身の人生への力強い旅立ちを見事に感じさせている。

チッタの学校での生活もまさに楽しいの一言につきた。授業中、立たされている友達も足もとに即製の筒をつなぎあわせてオシッコをしてみたり、集団でエスケープしたり、イタズラの限りを尽くし、それはまるでユニークな先生達と個性的な生徒たちとのゲームのように思える程だ。もちろんチッタの成績が上がるわけはなく、父の小言も自然と多くなる。だがチッタも黙って聞く年頃ではない。厳しい父を怖れ、尊敬しながらも、口応えとしては父を激昂させ、追い回されるハメになる。そんな時いつもかばってくれたのは母であつた。

チッタの母は病気をこじらせてこの世を去った。そしてチッタの悲しみもようやく癒えた頃「春一番」の結婚式が行なわれた。チッタにとっては、最も大切な2人の女性を失った生涯忘れ得ぬ一年だった……誰が一度は通らなくては行けない、さまざまな人生の別れを体験しながら、少年チッタはやがてくる激動の青春への旅立ちを、漠然とした意識の底にはあるがしかし確実なその手応えを感じていた。

＊かいせつ

一作ごとに世界の映画界に話題を投げかけ「映像芸術の巨匠」の名をほしままにしているフェデリコ・フェリーニ監督が「フェリーニのローマ」以来2年ぶりに放つ最新作。

＊ストーリー

15歳の春を迎える少年チッタ(ブルーノ・ザニン)も父(アルマンド・フランチャ)や母(ペペラ・マツジョ)そしておじいさん(ジュゼッペ・ラニグロ)や弟たちと共に祭りに来ていた。通りでは、男たちのひやかしに、若い娘たちが媚をふりまき嬌声をあげている。家々の窓に酒をくみかわりかかると、人々はそれぞれの思いで酒をくみかわりかかっている。チッタの憧れている年上の美しいひと・グラデスカ(マカリ・ノエル)もいる。そしてチッタの友達の悪童連も、さっきまで女の尻を追っかけていたと思つたら、今度は首のアカコティオン弾きのおじいさんをからかっている。何て素晴らしい夜なんだろう。

10月26日(土)よりロードショー

丸の内松竹 (201) 3720

〈映画ファン〉の絶賛を浴びる名作シリーズ第3弾!

＊音協11月例会作品
＊音協会員特別鑑賞券 ¥630 (一般1,000円の処)にて発売中
＊音協サービスセンターにて発売中

日・祝 10:00 平日 12:20 2:35 5:00 7:25